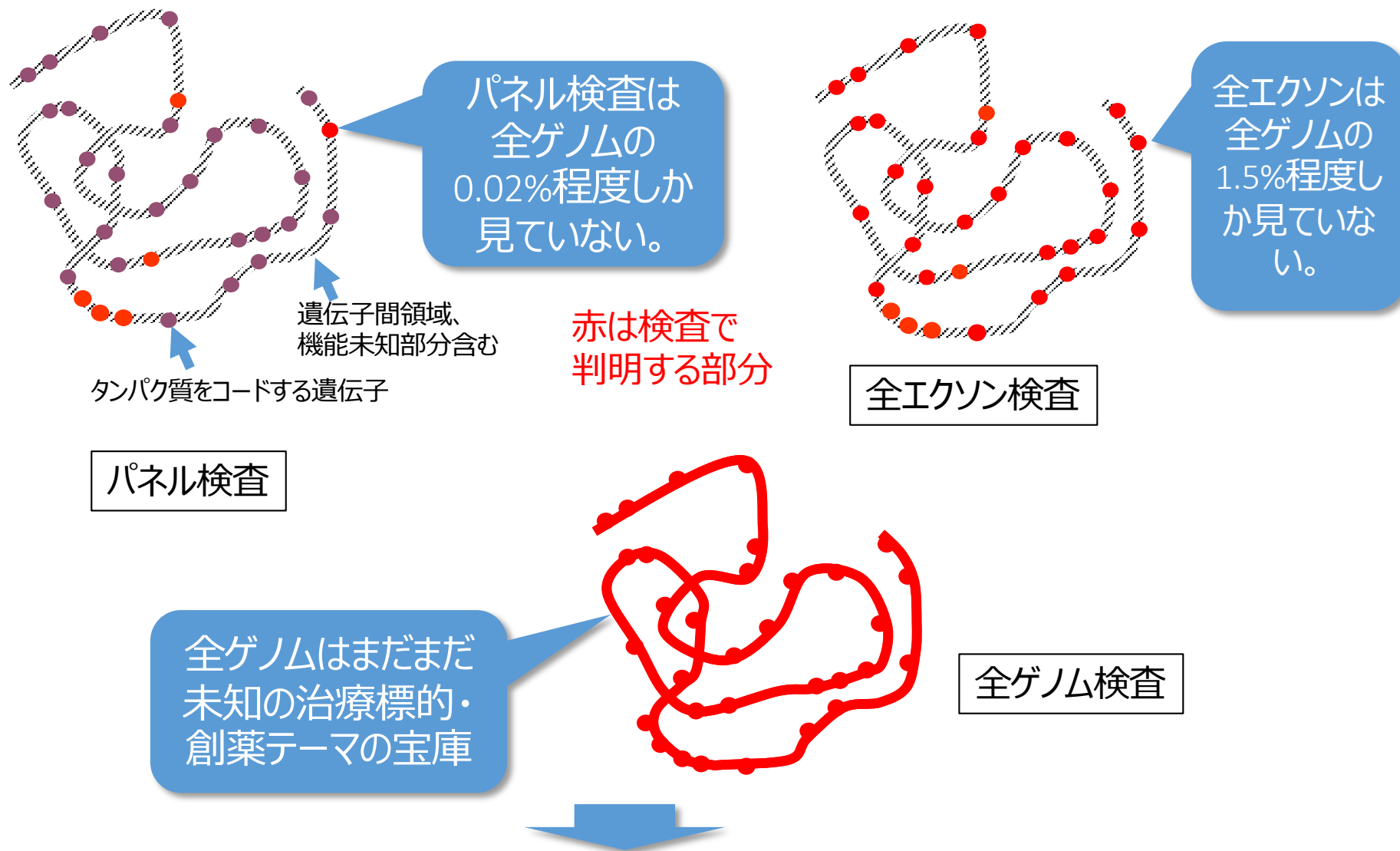


医薬品産業ビジョン策定に向けた官民対話資料（2021年8月24日）

がん全ゲノム解析への期待

国立研究開発法人 国立がん研究センター
理事長・総長 中釜 齊

がん全ゲノム解析の必要性



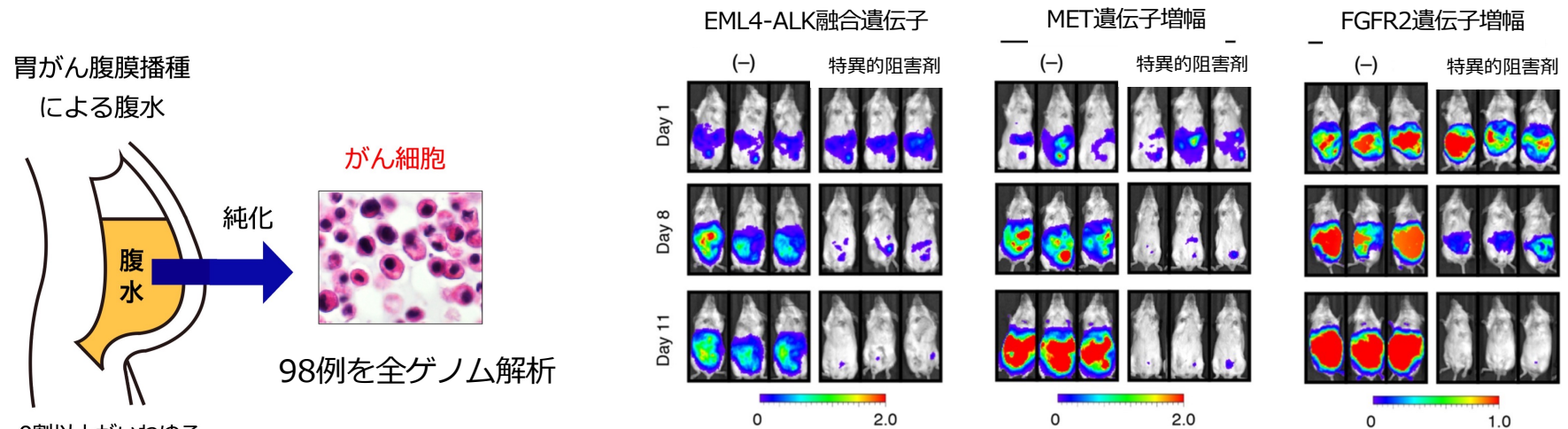
全ゲノム検査はパネル検査や全エクソン検査に比べると現時点でほとんど分かっていない未知の領域を探索でき、新規創薬標的・テーマの発掘は格段に飛躍することが期待される。

全ゲノム解析等の事業目的

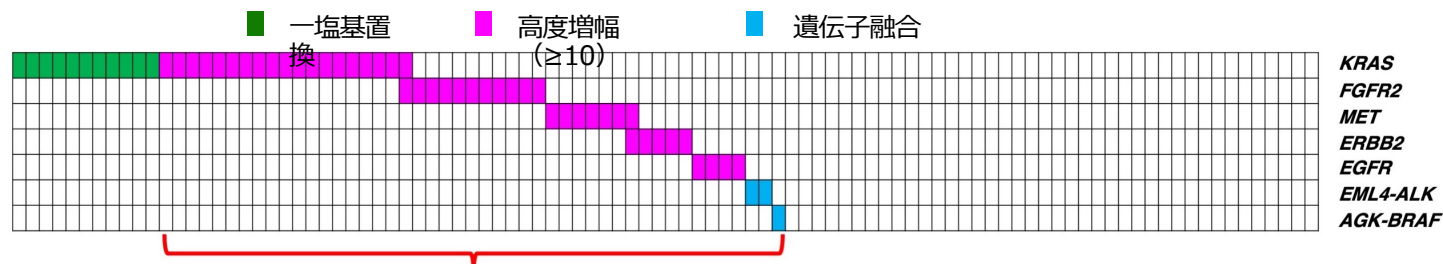
- ①全ゲノム解析等の成果を患者に還元する。
- ②新たな個別化医療等を実現し、日常診療への導入を目指す。
- ③全ゲノム解析等の結果を研究・創薬などに活用する。

全ゲノム解析によるスキルス胃がんの治療標的同定

難治性かつ病態解明が困難であるスキルス胃がんについて、腹膜播種による腹水中の腫瘍細胞を用いた全ゲノム解析等によって、疾患に特徴的なゲノム異常を解明し、治療標的となり得る複数のゲノム異常を発見 (2021年8月17日 論文公表)



少なくとも約1/4の症例は既存の分子標的薬の適応



約半数に高度増幅・融合!

(Nature Cancer, 2021)